R&Dフェーズ｜開発　**実用化時期**｜FY29-

Mehr Licht!
More Photonics for Intelligence

#C10

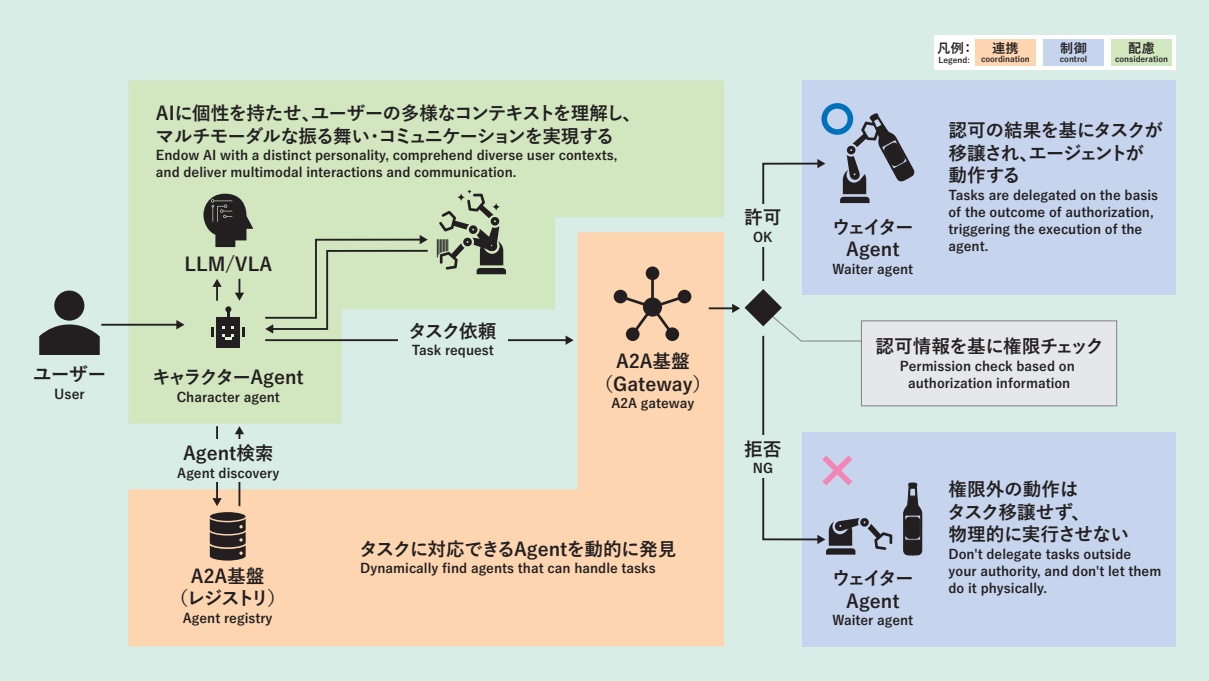
#安心・安全#DX・AX（デジタル変革）#AI倫理・責任あるAI

AI・ロボットと人が共存するための連携基盤

AIやロボットを安全に連携させ、権限外の動作を防ぎつつ人に配慮した動作を実現します

技術課題・ゴール

AIエージェントの連携はサイバー空間で広がる一方、ロボットの物理動作が加わると課題の質が変わります。物理動作は取り消せず人や空間に直接影響するため、権限外の動作を実行させない事前防止が不可欠です。また人のそばで動くロボットには安全さに加え自然に受け入れられる振る舞いも必要です。本技術は連携基盤で権限制御を物理動作まで及ぼし、個性ある振る舞いで人が自然に受け入れる環境を目指します。



技術ポイント

要素技術

・エージェント間の動的発見・認証認可を行うA2A連携基盤と、その認可結果を末端ロボットの物理動作まで及ぼす制御方式
・ロボットが対話やカメラで捉えた相手の様子から状況を読み取り、それに合わせた振る舞いを自律生成するEQ動作技術

市中技術差異点

・A2Aプロトコル等の標準はソフトウェア間の連携・認可が対象です。本技術はその認可を物理空間のロボットの動作まで一貫して適用
・安全な権限制御と、相手に合わせた配慮ある振る舞いの自律生成を両立し、人と共存できるロボットを実現します

適用ビジネス/ユースケース

ヘルスケア

家庭内では介護や育児など人のそばで支える場面でフィジカルAIへの活用が期待されます。例えば高齢者には服薬の時間を知らせ、赤ちゃんには呼吸や寝返りを見守り、異常があれば人に知らせます。直接手を出す対応は人に委ね、権限のない動作は実行しないことで、人とフィジカルAIが安心して共存できる世界を目指します。

出展組織
株式会社NTTドコモ モバイルイノベーションテック部